

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書（非専門医連携対策）

眼科で判明した肝炎ウイルス陽性者の紹介率・受診率向上を目指した研究

研究分担者：高橋 宏和 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター  
研究協力者：磯田 広史、矢田 ともみ 佐賀大学医学部附属病院肝疾患センター  
研究協力者：西村 知久 医療法人 YT 美川眼科医院

**研究要旨：**

令和元年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携のアンケートによる現状調査では、肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にウイルス性肝炎患者が通院していたが、眼科は最も「肝炎ウイルス陽性者を必ず肝臓専門医に紹介する」と回答した割合が低かった。令和2年度は肝炎医療コーディネーターを活用して陽性患者の肝臓専門医への紹介率を高めている佐賀県の美川眼科医院と協力して、眼科から紹介率向上に向けた取り組みに着手した。眼科領域で肝炎に関する活動が広がるためには、眼科医師やスタッフの目線から考慮された資材やマニュアルの作成が必要であると考え、美川眼科の協力のもと、佐賀県の眼科で使用する肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレットを作成した。令和3年5月の第91回九州眼科学会・第34回九州眼科医会従業員教育講座において「眼科術前スクリーニング検査を活用したウイルス性肝炎対策」をテーマに講演しリーフレットの紹介・解説を行った。

令和3年度はさらに、「肝炎対策」にまだ経験が浅い眼科医院スタッフや他の都道府県でも使いやすい、肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレットを作成した。今後は佐賀県版と全国版リーフレットを比較・効果検証しながら運用していく予定である。

**A. 研究目的**

2019年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携の現状調査（厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服政策研究事業「地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究」班）では、肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にウイルス性肝炎患者が通院しているが、新しい治療法や医療費助成制度、紹介できる医療機関等に関する知識や情報の不足により治療に進んでいない患者が未だに存在すると推測された。「肝炎ウイルス陽性者を必ず肝臓専門医に紹介する」と回答した割合が最も低い診療科である眼科において、紹介率を向上させる取り組みを開始する必要があると考えた。本研究では眼科医療機関において、術前検査等で肝炎ウイルス陽性となった患者への、適切かつ効果的な説明の実施、陽性者の肝

疾患専門医療機関への紹介および受診状況の改善のためのスキームやツールを構築し、全国へ展開することを目的とする。

令和2年度は肝炎医療コーディネーターを活用して陽性患者の肝臓専門医への紹介率を高めている佐賀県の美川眼科医院の協力を得て、眼科からの紹介率向上に向けた取り組みに着手した。眼科領域で肝炎に関する活動が広がるためには、眼科医師やスタッフの目線から考慮された資材やマニュアルの作成が必要であると考え、美川眼科の協力のもと、佐賀県の眼科で使用する肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレットを作成した。令和3年5月の第91回九州眼科学会・第34回九州眼科医会従業員教育講座において「眼科術前スクリーニング検査を活用したウイルス性肝炎対策」をテーマに講演し、リーフレットの紹介・解説を行

った。令和3年度はさらに全国的な展開に向けて、「肝炎対策」にまだ経験が浅い眼科医スタッフや他の都道府県でも使いやすい様な、肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレットを作成した。

図1 (佐賀県版眼科リーフレット)



## B. 研究方法

令和2年度に作成したリーフレット(図1)について、実際に使用した美川眼科医院や県内の他の眼科医の看護師やスタッフに、使いやすさや患者の反応、改善点等について、ヒアリング調査を行なった。また、コピーライターと共に美川眼科医院の看護師と意見交換を行い、昨年度のリーフレットに関するヒアリング調査結果も踏まえて、新たに肝炎対策にまだ不慣れな眼科医でも使いやすいリーフレットを作成することとした。

## C. 研究結果

令和2年度に作成したリーフレットに関するヒアリング調査の結果は主に次のとおりであった。

- ・リーフレットはとても使いやすいし、患者からもわかりやすいと言われる。否定的な反応をする患者はいなかった。
- ・「精密検査」という言葉は、患者に「肝生検」を想起させることがあったが、実際には採血と超音波検査だけだと伝えると安心することが多いので、このリーフレットでは「精密検査は採血検査と超音波検査」

と明記しているため、患者に抵抗感なく勧めやすい。

- ・肝がんの写真やリアルなイラストは、あまり載せて欲しくない。不安を煽りやすいし、術前や術後は患者がナーバスになっているので刺激して欲しくない。

- ・治療のことが全く書かれていないので、良い薬ができたことは簡単に書いてあるとよい。

- ・病気や制度のことを詳しく聞かれてもわからないし、対応するための十分な時間もとれないことが多いので、相談や制度の問い合わせ先をそれぞれ明記してあるのはありがたい。

- ・患者が実際に精密検査のために専門医療機関を受診したかどうかはまだわからない。といったものであった。

こうした意見を踏まえ、コピーライターに新たなリーフレット案(A4裏表)を複数作成してもらい、美川眼科や佐賀大学医学部附属病院の看護師や事務員に評価してもらった。看護師には主にリーフレットを渡す側の看護師や肝Coとしての使いやすさを、事務員にはリーフレットを渡された側の患者目線からの感想(精密検査を受診したくなるか、不快な気持ちにならないか等)を評価してもらった。さらに本研究班の眼科作業部会で班員の方々からも評価頂き、リーフレットの最終確定を行なった。

(図2, 3)

本リーフレットに対する評価は次の通りである。

### 眼科看護師(渡す側を想定)からの評価

- ・見やすく良い。文言的にも問題ないと思った。
- ・肝臓の絵も進行具合が分かりやすい。挿絵も検査のイメージが付きやすい。治療薬のことも入っていて、治療にもマイナスの先入観を持ちにくいと思った。
- ・実際には当日の診療代が全て無料にならないことがあるので、佐賀県版と違って「対

象の検査無料」に訂正されているので、誤解を招きにくいように改善されている。

- ・文言も分かりやすく、色合いも優しい感じで読みやすい。
- ・今使用しているリーフレット（佐賀県版リーフレット）と比較すると、今回はシンプルで色使いも優しい印象を受けました。
- ・コロナの影響で陽性という言葉に敏感になっているので、受診が必要であることは伝わりやすい。
- ・現在の自分の重症度が分からないので、すぐに受診が必要であると感じた。
- ・現在使用しているものよりも内容がすっきりとしていて、簡潔丁寧にまとめられており、説明する側としてはこちらの方が使いやすいと感じた。
- ・全体の色合いはシンプルで見やすく、私たちが伝えたいことに絞られていて分かりやすくなったと思う。

### 事務職員（受け取る側である患者に近い目線と想定）からの評価

- ・簡潔なデザインと文章で良い。色合いも目をひく色で良いと思う。
- ・肝炎の進行具合などもわかりやすく、検査の内容も書いてあるので無料だししてみようかなと沢山のの人に思ってもらえると思う。見やすくて分かりやすい。
- ・赤緑黄でまとめてあるので、色のバランス的に目をひけるものになっていて良いと思った。目に優しいトーンなので見やすい。
- ・シンプルで的確。さっと読めるのに印象に残る内容で良いと思う。色味も良い。
- ・シンプルで読みやすかった。恐怖心をあたえることなく、きちんと読まなきゃと思わせる色だった。
- ・重要なところを赤でバックを補色の緑にしているのでとても目を引く見やすい色使いだと思う。
- ・文字の大きさや色使いで気になる部分は特になかった。統一感もあって分かりやすい。

(図2：新規リーフレット表面)



(図3：新規リーフレット裏面)



### D. 考察

眼科などの非肝臓専門の医療機関に求められる役割のうち、まずは院内に存在する陽性者を、確実に肝臓専門医への受診につなげることが重要であると考えます。そのためには、たとえ肝炎の知識が十分ではないスタッフであっても抵抗感なく受診勧奨が行えて、受け取った患者が自発的にも肝臓専門医に受診したくなるような、可能な限り最小かつ効率の良いツールやマニュアル・スキーム作りが重要である。今回作成したリーフレットは渡す側としての眼科看

護師、受け取る側としての患者、の両方の目線を考慮して作成する必要があった。抵抗感なく渡しやすいリーフレットと、受け取って受診したくなるリーフレットの両方を満たすことが難しかったが、美川眼科医院や本研究班の班員の方々のご協力により完成した。今後、佐賀県では新旧リーフレットを使用しながら、「眼科での使いやすさ」と「専門医への受診促進効果」の2点において比較検証を行う予定である。

2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

## E. 結論

眼科での専門医への紹介率・受診率を向上させるべく取り組みを開始した。今後は効果検証の方法や他専門領域への展開も検討しながら取り組みを続けていく予定である。

## F. 政策提言および実務活動

### <政策提言>

なし

### <研究活動に関連した実務活動>

なし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

なし

### 2. 学会発表

磯田広史, 高橋宏和, 江口有一郎. 「佐賀県における肝炎患者の診療連携に関する調査結果と今後の対策」日本消化器病学会雑誌118 Suppl A213, March 2021

### 3. その他

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし